

国立大学法人 豊橋技術科学大学「社会人向け実践教育プログラム」
文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
豊橋市 次世代「農力」UPアカデミー事業

「IT食農先導士養成プログラム（最先端土地利用型IT農業コース）」 平成29年度第2期生募集要項

豊橋技術科学大学は、愛知県、豊橋市、田原市などの地域自治体や地元企業と連携して、豊橋技術科学大学「社会人向け実践教育プログラム」、豊橋市次世代「農力」UPアカデミー事業において「IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)」を実施しており、文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)に認定されています。

愛知県東部の東三河地域は、国内有数の先進的農業地帯ではありますが、近年の輸入農産物の拡大、光熱費の高騰、高齢化等により農業生産額が低迷しています。豊橋技術科学大学では、光・電子技術などの工学的知識と農業技術が習得できる人材育成プログラムを開発し、『IT食農先導士』を養成します。これによって競争力のある攻めの農業を展開して、基幹産業である食農産業を活性化し、地域再生化を図ります。

そこで、平成29年度「IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)」の受講生を以下の要領で募集します。

- 1 募集人員：「IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)」第2期生5人
- 2 受講期間：平成29年12月～平成31年3月
- 3 受講場所：国立大学法人豊橋技術科学大学キャンパス他

4 人材育成内容

豊橋技術科学大学等において、これまでに蓄積した技術科学的な成果を踏まえて、土地利用型農業において、IT技術を農業に導入するための講義、実習を行い、将来地域の担い手となりうる若者等が定着可能な土地利用型農業の管理、経営ができるIT農業人材を育成します。

受講者は先端基礎農学特論、IT農業管理学特論、IT農業経営管理学特論、課題解決技術科学研究、国内先端IT農業研修を履修・修得した人に豊橋技術科学大学から『IT食農先導士』の称号が授与され、履修証明書が交付されます。

先端基礎農学特論の6科目を教室講義(4か月)で受講した後、IT農業管理学特論、IT農業経営管理学特論の各6科目をeラーニングによって履修します。課題解決技術科学研究は、国立大学法人豊橋技術科学大学キャンパス内または生産者圃場等において週1日程度の調査研究を行い、実際の営農場面に役立つ新技術開発に関する調査研究論文を取りまとめ、地域の学会及びシンポジウムなどで広く発表していただきます。

「IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)」修了者には、豊橋技術

科学大学IT農業サポートセンターを通じて、最新のIT情報と農業情報が提供され、IT農業ネットワークを形成しながら地域の中核農業者となる道が開かれます。また、「IT食農先導士」は、愛知県や豊橋市等の地域自治体、JAあいち経済連、食農関連企業および、地元企業などと連携した活動の支援を受けることができます。農商工連携、農業の6次産業化のノウハウも得ることも可能です。

※なお、既に「IT食農先導士養成プログラム」や「最先端植物工場マネージャー育成プログラムの開発及び実施」を受講された方は修了後、修了証のみの授与となります。

5 受講資格

- ① 高等学校卒業程度の学歴を有している人
(本学において、同等以上の学力があると認められた者を含む。)
- ② 心身ともに健康で、食農産業の振興に強い関心を持っている人
- ③ パソコンを使いこなすことができ、自宅でインターネットへの接続ができる人
- ④ 週1日程度の調査研究に従事できる人
- ⑤ 国内の先端IT農業研修(実費個人負担)等に積極的に参加できる人

6 授業時数 405 時間

- (1) 教室講義 6科目 75 時間
- (2) e-ラーニング 12 科目 120 時間
- (3) 先端IT農業研修 30 時間〔国内5回(主として東海地域)〕
- (4) 課題解決技術科学研究 180 時間

7 受講料 5 万円 (※ただし、現地研修等で実費個人負担がある場合があります。)

8 応募書類

応募書類は、本事業URLから取得し、豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター内IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)事業推進室宛に提出してください。

※提出された応募書類は返却しません。

- (1) 様式1 「志願書」
- (2) 様式2 「履歴書」
- (3) 様式3 「志望動機」 【1,000字程度】
- (4) 様式4 「小論文」 【1,000字程度】

9 出願期間:平成29年9月1日(金)～10月20日(金)当日消印有効

10 選考方法:書類審査により選考を行い、場合により面接を行うことがあります。

※選考結果は、合否にかかわらず11月20日(月)までに書面でお知らせします。

1 1 応募書類の作成要領

応募書類は、志願書、履歴書、志望動機および小論文が必要です。以下の各項を参照の上作成してください。

(1) 志願書(様式1)

・様式1に記載されている全ての欄に記入の上、氏名欄に捺印をしてください。

(2) 履歴書(様式2)

・写真欄には、上半身・無帽・正面向き・背景無地のもので志願前6か月以内に撮影した写真(縦4cm×横3cm)を貼付してください。

(3) 志望動機(様式3)

・本プログラムを受講するにあたり、志願者本人の志望動機をA4判1枚程度(1,000字程度)で作成してください。

(4) 小論文(様式4)

・『IT農業及び食農産業に関する考え方』というテーマで小論文をA4判1枚程度(1,000字程度)で作成してください。

1 2 応募書類の提出・問い合わせ先

応募書類は封筒に入れ、『最先端土地利用型IT農業コース受講希望』と朱書し、下記の提出先に簡易書留で郵送してください。

提出先・問い合わせ先：〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
国立大学法人豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター
IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)事業推進室
電話：0532(44)6655, E-mail：sendoshi@recab.tut.ac.jp

- 詳細はホームページ(<http://www.recab.tut.ac.jp/>)に記載しています。
- 応募書類の書式は、<http://www.recab.tut.ac.jp/contents/ITagri/entry.html>よりダウンロードしてお使いください。

※個人情報の取扱いについて

志願時にお知らせいただいた氏名、住所等の個人情報については、本事業の実施に関わる場合にのみ使用し、他には利用いたしません。

様式1

国立大学法人 豊橋技術科学大学「社会人向け実践教育プログラム」
 文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
 豊橋市 次世代「農力」UPアカデミー事業

IT 食農先導士養成プログラム
（最先端土地利用型 IT 農業コース）

* 受付番号

志 願 書

提出日：平成 年 月 日			
ふりがな			男 ・ 女
氏 名	印		
生 年 月 日	年 月 日 生（ 歳）		
現住所	住 所	〒	
	電話番号 (携帯)	F A X	
	E-mail		
勤務先 (学校名)	会社名 (学校名)	役 職 (学年)	
	勤務先 (学校) 住 所	〒	
	勤務先 電話	勤務先 F A X	

様式2

国立大学法人 豊橋技術科学大学「社会人向け実践教育プログラム」
文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
豊橋市 次世代「農力」UPアカデミー事業

IT 食農先導士養成プログラム
（最先端土地利用型 IT 農業コース）

* 受付番号

履 歴 書

ふりがな 氏 名	写 真
学 歴（高等学校入学以降で記入してください）	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
職 歴	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
資 格 （ 取 得 年 月 日 ）	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	

※欄が不足する場合は、別紙（A4用紙）に記載してください。

様式 3

国立大学法人 豊橋技術科学大学「社会人向け実践教育プログラム」
文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
豊橋市 次世代「農力」UPアカデミー事業

IT 食農先導士養成プログラム

（最先端土地利用型 IT 農業コース）

* 受付番号

志 望 動 機

志望動機【1000字程度】

--

様式 4

国立大学法人 豊橋技術科学大学「社会人向け実践教育プログラム」
文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
豊橋市 次世代「農力」UPアカデミー事業

IT 食農先導士養成プログラム

（最先端土地利用型 IT 農業コース）

* 受付番号

小 論 文

小論文【1000字程度】

題目：『IT 農業及び食農産業に関する考え方』

--

IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)

【教室講義】

科目名	内容	日程	講師
先端基礎農学特論	土壌植物栄養学	栽培の基本となる土壌科学、植物栄養学、植物生理学を講義	2017年12月2日(土) 2017年12月10日(日) 東北大学 名誉教授 三枝正彦
	農業統計学	資源動植物の生育、収量データを、統計解析演習を含めて講義	2017年12月23日(土) 2018年1月6日(土) 獨協大学 経済学部 専任講師 李 凱
	資源植物学	水稻、普通畑作物、工芸作物、蔬菜、果樹、花きの特性等を講義	2018年1月20日(土) 2018年1月27日(土) 豊橋技術科学大学 先端農業・ バイオリサーチセンター特任助教 熊崎 忠
	農業経営学	持続的安定農業経営を行うための基礎的理論等を講義	2018年2月3日(土) 2018年2月10日(土) 名古屋大学 名誉教授 竹谷裕之
	植物保護学	植物の生育を左右する病原菌、害虫の総合防除法などを講義	2018年2月17日(土) 2018年2月24日(土) 愛知県農業総合試験場 環境基盤部病害虫研究室 室長 三宅 律幸
	ビジネスプラン論	ビジネスプランを作成するための経営戦略・事業戦略の立案手法理論等を講義	2019年2月～3月 を予定しています 未定

【e-ラーニング】

科目名	内容	講師	
IT農業管理理学特論	圃場一作物栄養診断	土壌診断や作物栄養診断について、生産現場で実践可能な簡易診断法を含めて講義	東北大学 名誉教授 三枝正彦
	6次産業実践論	ケーススタディによる事例紹介、ケースメソッドによる想定課題に対する解決方法の検討などを通して、6次産業化の現場で必要とされる知識の習得を図る。	食と農研究所 加藤寛昭
	IT精密農業論	精密農業の特徴や独自性、その技術体系および農業ロボットについて講義	東京農工大学 農学研究院 澁澤 栄
	環境保全型農業論	農薬や化学肥料の使用を抑え、自然生態系本来の力を利用して行う農業。農業のもつ物質循環機能を生かし環境と調和した持続可能な農業生産のあり方を習得する。	東北大学 名誉教授 三枝正彦
	バイオマス活用論	バイオマスの農業利用、特にコンポストやエネルギーとしての利用について講義	国立研究開発法人 農業・食品産業 技術総合研究機構 平内央紀
	農業環境計測論	植物の生育を左右するフィールドの環境要因に加えて経営要因等の計測方法を学ぶ。	日本大学 生物資源学部 梅田大樹
IT農業経営管理理学特論	情報管理論	農業現場に必要とされる農業情報の収集・分析及び加工・配布方法を学ぶ。また、PowerPointによるプレゼンテーション、Excelによるデータ管理・分析、ネット販売システムの基礎など農業情報のための情報処理ツールを習得する。	愛知県立大学 情報科学部 入部百合絵
	環境経営論	本講義では農業従事者が知っておくべき環境問題(循環型社会、地球環境問題、水質、廃棄物...)をわかりやすく解説するとともに、そのような環境影響を評価する方法について学習する。	東洋大学 情報連携学研究所 後藤尚弘 豊橋技術科学大学 井上隆信
	知的財産管理	農業技術やその関連産業で生み出される知的財産の情報管理について学び、地域特産物のブランド化に関する権利取得法等についても学ぶ。	SANSUI 国際特許事務所 井川浩文、小西俊春
	農業マーケティング論	ビジネス創出のために、経営理念の立て方、SWOT分析、マーケティングの基礎知識を講義	MORE経営コンサルティング(株) 日野眞明 地域ビジネス研究所 中野和久
	農業支援政策論	農業生産・経営を行う上で、必要な様々な関係法規について学習する。	名古屋大学 名誉教授 竹谷裕之
	食農リスク管理論	農畜産物の安全・安心の確保を目的とするトレーサビリティシステムの概要を学び、農産物の生産現場へのGAP導入の実務についても学ぶ。	豊橋技術科学大学 名誉教授 平石 明 東北大学 名誉教授 三枝正彦 豊橋技術科学大学 田中三郎 イノチオアグリ(株) 山本英治

【その他】

教室講義の講師・日程等は変更になる場合があります。